

1993年度事業報告書

I. 事業の状況

1993年の企業メセナの実態をみますと、多くの企業がこの厳しい経済環境下にあってもメセナを行なうべく努力していることが窺えます。当協議会の調査によると、回答企業の総資金援助額は91年、92年と較べて、93年は漸減傾向にはあるものの、8割弱の企業は資金援助額や支援件数を前年並みか前年より増やしており、前年より減らした企業は2割強にすぎないことが明らかとなっております。また、支援方法については、資金援助だけでなく、場所の提供や物的支援が増えており、企業がその経営資源を活用して支援するなどメセナに工夫をこらしていると云えます。そして、担当部署が明確になった企業も前年より多くなってきています。このような調査結果をみますと、93年の企業メセナは深刻な不況にもかかわらず企業内に着実に根をおろしメセナの質の向上が図られていると考えられます。

また、93年度には国や地方自治体にいくつかの新しい動きをみることが出来ます。国は昭和音楽大学に日本で最初のアート・マネージメントの学科を認めました。また、税収減の厳しい国家予算の中で文化庁の予算は補正予算も含めて大きく伸びております。そして、2月には当協議会が特定公益増進法人に認可されました。これらは、国が文化行政に従来よりも目を向けつつあるとの期待を抱かせるものと云えます。地方自治体は相変わらず文化施設を建設しておりますが、その運営管理や地域の文化振興に企業の協力を求めようとその方策を模索し、一部ではメセナ協議会設立の動きも見られます。

このような環境の中で、1993年度の当協議会の事業活動は次の3点を中心に展開いたしました。

①企業および一般に対する啓発・普及活動を重点実施

会員企業に対しては、従来のセミナーに改善を加えたほか、新たなコースを設け会員企業のメセナ活動に役立つものとししました。出版物については、『メセナ』誌の内容を一新し、『メセナ白書』も発行元をダイヤモンド社とし、一般の人々が読みやすい内容とししました。そのほか、「ギャラリー散歩」「公演招待サービス」を始め、企業のメセナ担当者とアーティストとの交流の場を拡げる活動を行いました。

②助成選考委員会の設置とメセナ優遇税制の獲得

メセナに関する税制上の優遇措置を政府に求めてまいりましたが、その第一歩として当協議会の特定公益増進法人認可を申請し、94年2月15日に認可をうけました。これに先立ち5月に、特定公益増進法人認可後助成事業の要となる助成選考委員会を発足させ、助成認定活動がスタートしました。

③スイス・ドイツ視察団の派遣

92年に実施しました日米メセナサミットに引き続き93年11月にスイス・ドイツに視察団を派遣し、ヨーロッパにおけるメセナの現状、地方自治体と企業メセナの連携等について視察いたしました。

以下、事業並びに収支結果についてご報告致します。

1. 事業報告

各事業の具体的作業は各専門部会、プロジェクトのメンバーのご協力を得て推進致しました。

1.1 会員数状況

会員数は3月31日現在、正会員167社453口、準会員39社42口となり、1993年度期首に比べ、正会員10社減、準会員1社増となっております。

1.2 事業の実施状況

① 啓発普及事業

企業のメセナ担当者を対象とする「企業メセナを考えるセミナー」は「企業メセナセミナー」と改め、内容も3コースとし充実を図りました。1つは新しくメセナの担当になられた方々への「入門編」で、企業の社会的責任と社会貢献、メセナの重要性等基本的な考え方を理解して頂くものです。講師は山中電力中央研究所研究員。2つ目は92年度から実施しております「アートを学ぶ」シリーズです。93年度はセゾン美術館副館長難波英夫氏、大阪大学助教授渡辺裕氏、札幌演劇鑑賞会理事長平田修二氏、佐谷画廊社長佐谷和彦氏等をお願い致しました。3つ目は「メセナの現場は今―ケーススタディ」です。これは、メセナ担当者の現場の状況をケーススタディとして取り上げ、相互に研鑽しようとするものです。93年度はセゾン、アサヒビール、松下電器、第一生命の担当者のご協力を頂きました。

アート・マネージメント講座は、7月19日コロンビア大学ジョーン・ジェフリー教授に芸術経営学の見地から、11月26日にはメトロポリタンオペラ理事長ブルース・クロフォード氏からファンドレイジングの実際について講演を頂きました。

会員企業とアーティストとの相互理解の場とする定例会は8月3日「尺八―日本の音をグローバルにとらえて」9月16日「『熱海殺人事件』通し稽古見学会」11月18日「音というメディア―サウンドカルチャー・フェスティバルを訪ねて」の3回を実施しました。

3回目を迎える「文化フロンティア会議」は文化パステルとの共催で辻邦生、筑紫哲也氏らにより「文化国家へのプレゼンテーション」をテーマに対談、シンポジウムを行いました。

新たに始めた「ギャラリー散歩」は11月24日の佐谷画廊、イトーキギャラリー等の見学を第1回に、以後月1回のペースで実施しました。

② 情報集配・仲介事業

助成要請情報はこれまで『メセナ』誌に掲載しておりましたが、『メセナ』誌が一般向けに一新したのを契機に、助成要請情報の会員企業への仲介方法を変更し、新たに発刊する会員企業への機関紙『ニューズレター』にて紹介することにしました。

『メセナ』誌はデザイン、内容を一般の読者を対象とするものに改め、書店で購入できるよう販売方法も改善しました。

③ 調査研究事業

『メセナ白書93』を10月に刊行しました。今回は前年度よりやや少ない403社からの回答を得ました。調査内容は継続的に調査するもののほか、不況の影響を知るために91年と92年のメセナ活動を比較した質問を行いました。その結果、92年はまだ大きな影響を受けていないことが判りました。また、企業への調査だけでなく、芸術団体を対象として企業メセナとの関係を調査、一般市民を対象に市民と企業メセナの関係も調査し掲載致しました。

また、UCLA、芸団協、昭和音楽大学と共同で「日米文化政策比較研究」プロジェクトに参加しております。

④ 顕彰事業

「メセナ大賞93」は全国110企業より145事業の応募がありました。『メセナ大賞』のセゾングループをはじめ『メセナ特別賞』『メセナ賞』を9社が受賞しました。今回受賞した9社のうち3社は財団であり、そのいずれもが国際性豊かなもので、メセナの国際化時代の到来を示すものでした。

⑤ 国際交流事業

10月31日から11月10日にかけて、スイスとドイツに視察団を派遣しました。日本からは堤副会長をはじめ、山本第一生命副社長、木村元駐独大使、根本専務理事など15名が参加、ローザンヌ国際バレエ・コンクールの創設者であるF・ブランシュワイグ氏が同行してスイス・ドイツの文化施設、企業を訪問しメセナの現状を視察しました。

その他、5月19日には米BCA元会長ウィラード・ブッチャー氏、7月5日には英ABSA事務局長コリン・トウイーディ氏の講演会を開催いたしました。

また、根本専務理事が10月29日にウィーンで開催のメセナ国際会議に出席いたしました。

⑥ 助成事業

第6回通常総会で定款が改訂され、助成活動が事業に加わりました。93年度は特定公益増進法人認可の折衝と認可後の助成事業に備えて諸々の準備を行なうことにありました。認可は93年秋以降本格的な折衝に入り、94年2月15日に認可されました。諸準備の中心は助成選考委員会の設置、運営です。5月14日第1回委員会後計5回開催し助成認定活動とを行なうとともに、認定のための諸手続きを検討、決定しました。なお、認可後は3月15日、16日に東京、大阪で芸術団体に対し助成認定申請の説明会を開催、400人を越える出席者があり、関心の高さが窺われました。

個別の事業実績については別紙Iにてご報告致します。

2. 収支報告

2.1 収入

1993年度の助成寄付金収入を除く年間収入予算 14000万円（会費収入 13100万円、事業収入 650万円、雑収入 250万円）に対し、12794万円（会費収入 11819万円、事業収入 766万円、雑収入他 209万円）計画比91.3%の実績となりました。なお、助成寄付金収入は17000万円の予算に対して実績は1825万円 計画比10.7%となりました。

2.2 支出

助成寄付金を除く年間予算は事業費7280万円、管理費6530万円、予備費2460万円ですが、実績は事業費6334万円（計画比87%）管理費6281万円（計画比96.2%）、支出合計12615万円となりました。当期のみの純収支で見ますと収入12794万円に対し179万円の残になります。

1. 啓発、普及事業

1.1 定例会

- ① 8月 3日 「尺八ー日本の音をグローバルにとらえて」
 講師 デヴィッド・ウィラー氏（尺八演奏家）
 於 ミサワアートギャラリー室礼 20名
- ② 9月16日 「『熱海殺人事件』通し稽古見学会」
 講師 上田美佐子氏（シアターXプロデューサー）
 於 シアターX 55名
- ③ 11月18日 「音というメディアーサウンドカルチャー・フェスティバルを訪ねて」
 講師 藤枝守氏（作曲家）、美音子グリーマ氏（彫刻家）
 山田せつ子氏（舞踊家）
 於 シアターX 13名

1.2 セミナー

- ① 5月12日 「メセナセミナー入門編」
 講師 山中芳郎氏（電力中央研究所主査研究員）
 於 電力中央研究所会議室 19名
- ② 26~27日 「アートを学ぶー現代日本の美術」
 講師 難波英夫氏（セゾン現代美術館副館長）
 於 セゾン現代美術館 16名
- 「ケーススタディーセゾングループの文化活動」
 講師 桜井精一氏（西武百貨店）
 於 ホテル・メゾン軽井沢
- ③ 7月23日 「ケーススタディーアサヒビールのメセナ活動」
 講師 加藤種男氏（アサヒビール企業文化部課長）
 於 アサヒビール東京本社ビル 26名
- ④ 29日 「アートを学ぶーコンサートの過去と現在」
 講師 渡辺 裕氏（大阪大学文学部助教授）
- ⑤ 10月 5日 「アートを学ぶー地方の演劇これまでとこれから」
 講師 平田修二氏（札幌演劇鑑賞会理事長）
 於 東京芸術劇場 29名
- ⑥ 1月26日 「ケーススタディー松下電器のメセナ活動」
 講師 土井智生氏（松下電器社会文化部担当部長）他
 於 松下電器東京本社会議室 22名
- ⑦ 2月10日 「アートを学ぶー94年現代美術の行方ーアジア問題徹底討論」
 講師 費大為氏（美術評論家）、小倉正史氏（美術評論家）
 小倉利丸氏（富山大学教員）、宮島達夫氏
 於 P 3 24名
- ⑧ 2月16日 「アートを学ぶーわが国の美術市場と画廊の経営」
 講師 佐谷和彦氏（佐谷画廊社長）
 於 朝日スクエア 26名

於 朝日スクエア 26名

- ⑨ 2月28日 「ケーススタディー第一生命のメセナ活動」
～3月1日 講師 入沢 温氏 (第一生命社会文化事業室課長)
於 資生堂伊豆研修所 12名

1.3 アート・マネジメント講座

- ① 7月19日 「アメリカの芸術環境と企業メセナー芸術経営学の見地から」
講師 ジョーン・ジェフリー氏 (コロンビア大学教授)
於 朝日スクエア 40名
- ② 11月26日 「メトロポリタンオペラのファンドレージング」
講師 ブルース・クロフォード氏 (メトロポリタンオペラ理事長)
東京芸術劇場 44名

1.4 キャラリー散歩

- ① 11月24日 訪問先 佐谷画廊、イトーキギャラリー他 11名
- ② 12月22日 訪問先 フジタヴァンテ、GAギャラリー他 7名
- ③ 1月20日 訪問先 レントゲン藝術研究所、原美術館 8名
- ④ 3月9日 訪問先 横浜美術館 14名

1.5 事業共催

- ① 4月8日 「ドイツにおける企業メセナとベンツ社の活動」
講師 ハンス・J・バウムガルト氏
(独ベンツ社芸術支援担当責任者)
共催 ㈱電通総研
於 電通総研、8階ホール
- ② 6月7日 文化フロンティア会議93
「文化国家へのプレゼンティション
“生活大国”って、本気ですか」
共催 文化バステル
基調対談 辻 邦生氏 (作家)
筑紫 哲也氏 (ジャーナリスト)
司会 根本長兵衛専務理事
パネルディスカッション 山田 太一氏 (シナリオ作家)
浅井 慎平氏 (写真家)
阿川佐知子氏 (エッセイスト)
コーディネーター 天野 祐吉氏
於 草月ホール 300名
- ③ 3月16日 社会貢献活動講演会
共催 大阪商工会議所、大阪コミュニティ財団
講師 「ヨーロッパにおける企業メセナと社会貢献活動」
アジ・ヴァンハイヴァーピーク氏 (CEREC事務局長)

「日本型フィランソロピーの課題と展望」

本間 正明氏（大阪大学教授）

於 大阪コクサイホテル

174名

1.6 通常総会特別講演

- ① 6月14日 「ルネサンスのメセナとメセナのルネサンス」
講師 高階秀爾氏（国立西洋美術館館長）
於 如水会館
- ② 3月18日 「セゾン美術館の活動」
講師 林 牧人氏（セゾン美術館副館長）
「ヨーロッパにおける企業メセナ」
講師 アン・ヴァンヘイヴァーピーク氏（CEREC事務局長）
「ゲーゲンハイム美術館の活動について」
講師 トーマス・クレンズ氏（ゲーゲンハイム美術館長）
於 如水会館

2. 情報集配・仲介事業

2.1 『メセナ』誌の発行

- ① 4月20日 12号 特集 メセナは経営資源となりうるか
② 7月20日 13号 特集 音楽支援の光と影
③ 10月20日 14号 特集 今に生きるアート
④ 1月20日 15号 特集 岐路に立つヨーロッパのメセナ
部数 各5000部、 A 5 版、32頁

2.2 『ニューズレターM's』の発行

月 1回発行、会員企業メセナ担当者に配布

3. 調査研究事業

3.1 『メセナ白書93』の発行

9月30日 発行 （発行元 ダイヤモンド社）部数 7000部 A 5 版

4. 顕彰事業

4.1 メセナ大賞'93

- 4月 1日 募集要綱発表
7月 7日 応募締切 110社、145事業
9月30日 第1次審査委員会
10月18日 第2次審査委員会
12月14日 贈呈式 草月ホール

5. 国際交流事業

5.1 講演会

- ① 5月19日 「不況下の芸術支援を考える」講演とパネルディスカッション
講師 ウィラード・ブッチャー氏（米BCA元会長）

パネラー 片山淳吉氏 (松下電器社会文化部長)
 朝倉 撰氏 (舞台美術家)
 三露久男氏 (朝日新聞論説副主幹)
 コーディネーター 根本長兵衛専務理事
 於 京王プラザホテル

114名

② 7月 5日 「メセナー宣伝広告—マーケティング」
 および「新ヨーロッパにおける芸術支援」
 講師 コリン・トゥイーディ氏 (英ABSAS事務局長)
 於 如水会館

51名

5.2 派遣

① スイス・ドイツ メセナ視察団 主な訪問先

11月 1日 プロ・ヘルヴェティア (スイス連邦文化財団)
 チューリッヒ美術館、チューリッヒ・オペラ、ミグロ生協
 11月 2日 ラインハート・コレクション
 ヴィンタートゥール美術館、アラールハイリゲン美術館
 11月 3日 バーゼル美術館、バーゼル劇場
 ポール・ザッハー財団、バイエラー・ギャラリー
 11月 4日 ガシュタイク文化センター
 バイエレン州立オペラ、州立美術館
 11月 5日 ルドヴィヒ美術館
 11月 8日 ドイツ・オペラ、ベルリン芸術祭

② ウィーン国際会議

10月29日 根本専務理事出席

6. 助成事業

6.1 助成選考委員会

① 5月14日 第1回開催
 ② 7月28日 第2回開催
 ③ 10月 8日 第3回開催
 ④ 1月14日 第4回開催
 ⑤ 3月 1日 第5回開催

6.2 記者会見

① 6月18日 「企業メセナ協議会の特定公益増進法人化について」
 ② 3月 8日 「特定公益増進法人認可と今後の助成事業について」

6.3 芸術団体への説明会開催

① 3月15日 朝日スクエア 300名
 ② 3月16日 マイドームおおさか 67名

以上

II. 処務の概要

1. 役員に関する事項

平成5年度末現在役員

役員	氏名	就任年月日	担当職務	手 当	略 歴
理事	鈴木 治雄	1990.2.14	会 長	61万円	昭和電工名誉会長
	佐治 敬三		副会長		サントリー会長
	塚本 幸一		〃		ワコール会長
	堤 清二		〃		セゾンコーポレーション会長
	西尾 信一		〃		第一生命会長
	福原 義春		理事長		資生堂社長
	天谷 直弘				電通総研社長
	石川 六郎				鹿島建設会長
	稲森 和夫				京セラ会長
	大賀 典雄				ソニー社長
	中江 利忠				朝日新聞社社長
	平岩 外四				東京電力相談役
	松沢 卓二				富士銀行相談役
	根本 長兵衛				専務理事
	椎名 武雄		1990.7.11		
柴田 俊治			日本アイ・ビー・エム会長		
関本 忠弘			朝日放送専務		
竹中 統一			日本電気社長		
豊田 章一郎			竹中工務店社長		
三沢 千代治			トヨタ自動車会長		
後藤 康男	1991.4.1		ミサワホーム社長		
関沢 義			安田火災海上会長		
松橋 功			富士通社長		
山口 開生			日本交通公社社長		
瀬戸 雄三	1993.4.1		日本電信電話会長		
宮崎 邦次			アサヒビール社長		
吉野 照蔵	1990.2.14		第一勧銀会長		
監事					

2. 職員に関する事項

職 務	氏 名	就任年月日	担当事務	手当(月額)
事務局次長	高井 光子	1990.2.14	会計・事務	48万円
〃	岩瀬 慶孝	1990.4.9	総務・事業	なし
課長	林 はる芽	1991.4.1	事業	31
	野呂 健男	1990.2.14	事業	22
	久保田 大介	1992.4.1	事業	19
	小池 佐知子	〃	事業	19
	熊倉 純子	1993.4.1	事業	23

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
1993.6.14	1. 新会員承認の件 2. 1992年度事業並びに収支決算報告の件	可 決 可 決
1993.12.10	1. 新会員承認の件	可 決
1994.3.18	1. 新会員承認の件 2. 理事・監事選任の件 3. 1994年度事業計画並びに収支予算案の件 4. 世界メセナ会議	可 決 可 決 可 決 可 決

(2) 総会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
1993.6.14	1. 1992年度事業並びに収支決算報告の件	可 決
1994.3.18	1. 理事・監事選任の件 2. 1994年度事業計画並びに収支予算案の件	可 決 可 決

4. 許可、認可及び承認に関する事項

申請月日	申 請 事 項	認可月日	備考
1993.6.30	特定公益増進法人に係る適正な運営がされているものであるとの認定申請書	1994.2.15	

5. 契約に関する事項

該当なし

6. 寄付金に関する事項

該当なし

7. 主務官庁指示に関する事項

該当なし